

■徳川忠長 大名。父秀忠から寵愛を受けるも、将軍になれないことから、異常になり、蟄居の上、自刃させられた。
とくがわただなが
江戸城完成・1606＝ 江戸城で、徳川2代将軍秀忠の三男に生まれる。3代将軍家光の弟。母は秀忠の正室崇源院(江与)。
家康駿府退隠1607＝ 1歳：

才智にめぐまれて、生母江与から溺愛され、その影響を受けた父秀忠からも寵愛されるようになって、次期将軍になるとの風評が立ち、

大坂夏の陣・1615＝ 9歳：危機感をいだいた家光の乳母春日局は、駿府の家康に嘆願し、家康の指示で兄家光が世子と決定するが、
徳川家康没・1616＝10歳：*甲斐国18万石を領地として与えられ、

秀忠娘入内・1620＝14歳：元服し、従四位下参議に叙任。

元和大殉教・1622＝16歳：信濃小諸7万石を加増され、叔父頼房と並び、
徳川家光将軍1623＝17歳：父が将軍を家光に譲って後も、駿河・遠江・信濃に25万石を加増され、一気に50万石となり、
伊バニア断交・1624＝18歳：*駿府城を与えられて、藩主となり、駿河・遠江両国55万石を領するなど、父からの優遇は際立ち、

人身売買禁止1626＝20歳：従二位権大納言に叙任されたので、世に“駿河大納言”と称されるほどであったが、

父の力が衰えるとともに、行動が荒れ始め、

糸割符拡大・1631＝25歳：*家臣を手討ちにしたり、仕えていた少女を唐犬に食わせたりという異常な行動が目立ち始め、江戸で頻発していた辻斬りも忠長の仕業であると噂され、付家老朝倉宣正の切腹を上訴したことから、ついに、父秀忠から、付家老島居忠房の領地甲斐谷村に蟄居させられる。

徳川秀忠没・1632＝26歳：父秀忠が死去、
鎖国令Ⅰ・1633＝27歳：*親政を行っていた家光が重病に陥ると、忠長と党の大名が反乱を起こそうとしているという噂が飛び交い、危機感を持った家光に、安藤重長の領地上野高崎に移され、派遣された阿部重次に自害を命じられた。